

3 「おさゴールド」の特性を生かした袋1回掛け栽培

ねらいと成果

本県北部地域は「二十世紀」ナシの主産地であり、「二十世紀」は果皮が黄緑色で外観の美しいことが特徴である。この「二十世紀」の外観保持と黒斑病予防に2回の袋掛けが行われている。近年、黒斑病耐病性品種「おさゴールド」が育成され、黒斑病防除を目的とした2回の袋掛けが必ずしも必要でなくなってきた。そこで外観の美しさを保ちつつ、袋掛けを1回にした省力栽培について検討した。

その結果、早期の大袋掛けによる落果の影響について検討する必要があるが、小袋を掛けずに大袋を早期に掛けることで、これまでの2回袋掛けとほぼ同程度の外観が得られ、作業能率も約34%向上することが明らかとなった。

内容

1 方法

試験1：大袋1回掛けの時期の検討

処理区：①慣行：小袋（満開30日後）+大袋（満開48日後）、②大袋早期：大袋のみ（満開30日後）、③大袋中期：大袋のみ（満開38日後）、④大袋後期：大袋のみ（満開48日後）、供試品種：「おさゴールド」、小袋（HC01-S）、大袋（H65L）、（各

袋ともJA全農とっとり製）

調査方法：収穫果について各処理区の果実のさび程度と果実品質について調査した。

試験2：大袋早期1回掛けによる作業能率の向上
調査方法：試験1の慣行区と大袋早期区について、主枝単位で袋掛けに要した時間と着果数を調査した。袋掛けは各区とも大人1人（男性、身長165cm）が行った。

2 結果

(1) 大袋1回掛け：大袋の時期を小袋掛けの時期（満開30日後）まで早めることで、慣行と同程度の外観が得られた。また果汁の糖度等の果実品質についても、慣行と同程度であった。

(2) 作業能率：1果あたりに要する袋掛けの時間は慣行では29.8秒であったのに対し、大袋早期1回掛けでは19.5秒となり、作業能率が約34%向上した。

今後の方針

(1) 大袋早期1回掛けによる落果の検討

(2) 落果の恐れが少ない軽量な大袋の開発

松浦 克彦（北部農技セ・農業部）

（問い合わせ先 電話：079-674-1230）

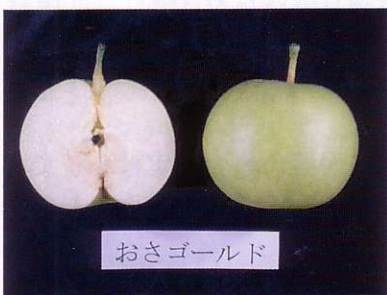


図1 黒斑病に強い「おさゴールド」



図2 省略できる小袋掛け

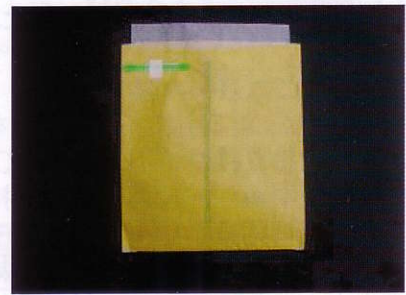


図3 青ナシに用いられる大袋

表 大袋掛けの時期と果実の品質及び外観

処理区	果実重 (g)	果皮色	果肉硬 度(lbs)	果 汁		さびの 程度
				pH	糖度	
慣 行	260	4.6	5.41	4.75	10.4	0.5
大袋早期	272	4.3	5.64	4.69	10.6	0.8
大袋中期	269	4.3	5.48	4.72	10.7	1.8
大袋後期	266	4.3	5.65	4.73	10.4	1.0

(注)果皮色は5段階評価法を用いた。各区とも20~30果を供試した。

さびの程度（果皮表面の30%以上：3、20%程度：2、10%程度1、無：0）

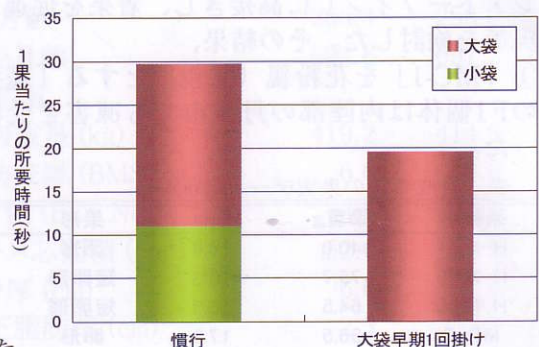


図4 早期1回袋掛けの省力効果